短期派遣 EUROPA 派遣報告書

氏名：新谷　崇（あらやたかし）
指導教官：工藤光一先生
専攻分野：イタリア近現代史

派遣の概要

（１）派遣先：ピサ高等師範学校（イタリア）
（２）派遣期間：2012 年 9 月 14 日から 2013 年 2 月 14 日まで
（３）受け入れ教員：ダニエーレ・メノッツィ教授
（４）研究テーマ：ファシズム体制下での教区司祭の動員について
（５）派遣目的：史料収集と博士論文の執筆

派遣中の活動概要

（１）研究内容

1922 年に誕生したファシズム政権にとって、大衆の合意獲得は、権力確立への重要課題であった。その際、イタリア王国の首都であるローマ内部にあり、イタリア国民の大多数が信仰するカトリックの中心であるバチカンとの関係は、繊細な問題であった。1870 年のローマ併合に由来するイタリア王国とカトリック教会の対立を解消し、イタリア社会の末端まで影響力を持つカトリック聖職者たちを取り込めれば、ファシズム政権の権力基盤確立は大きく進むはずであった。

バチカンとイタリア王国は、1929 年にコンコルダートを締結し、一応の政治的解決をみる。それによってカトリックがイタリア王国の公的空間に復帰する。とはいえ、すぐにカトリック聖職者がファシズム政権に協力したわけではないし、体制側も簡単に聖職者の動員に成功したわけではない。大衆を掌握するにはカトリック司祭の協力が必要だったが、イタリア人の日常生活に浸透するカトリック信徒団体（Azione Cattolica）は、組合や余暇事業、ボーイスカウトなど、イタリア人の生活や精神を掌握する際に、ファシズム諸組織のライバルでもあった。

一方で、ファシズム政権に協力する聖職者が数多く存在したのは事実である。なかでも、ひと際組織的かつ広範な地域で聖職者を動員した事業があった。それが、小麦増産を目的とする政権のプロパガンダ「小麦戦争」(La Battaglia del Grano)への聖職者の参加である。ファシスト系のカトリックジャーナリスト G・デロッシと彼が編集長を務めた雑誌『イタリアと信仰』(*Italia e Fede*)が中心となり、聖職者を動員した。小麦戦争に参加した教区司祭は、体制が望む科学的農法を教区民であるイタリア人農民に教え、小麦の平均収穫量を競うコンクールに参加した。聖職者の動員は、イタリア王国の行政が浸透しきれなかった辺鄙な土地までも、カトリック組織を通じてファシズム化しうる回路を作った。そして、

聖職者がファシズムの農業政策に毎年参加するという現実が、バチカンとファシズム政権を衝突がありながらも結びつけ続けさせたのではないか、本研究ではそのような仮説を抱いている。

以上のような聖職者の「小麦戦争」への動員がイタリア社会に与えた影響と政教関係上の史的意味に関心をもっている。そして、本派遣の機会を活かし、研究に必要な史料を収集、分析し、博士論文の執筆を進めた。

（２）派遣期間中の計画

主にフィレンツェ国立中央図書館、バチカン秘蔵文書館、ウーディネ大司教文書館で史料を収集する。現地受け入れ教員の指導のもと、三章構成で構想している博士論文のうち二章分を完成する。

（３）現地での活動と成果

【授業・ゼミ】

2012 年 10 月から現代史のゼミに参加した。週二回、各 2 時間でおこなわれ、テーマは、「宗教の政治化と政治の神聖化」であった。2012 年 12 月までは、フランス革命から、イタリア統一、ファシズム、戦後までの、政治と宗教の双方のプロパガンダについて、教員が解説した。2013 年 1 月以降は、共通テーマに沿った学生による報告がおこなわれた。ゼミの共通テーマが博士論文で扱っている内容と密接に関わっているので、大変参考になった。また、隔週で受け入れ教員と面談し、研究に関するアドバイスを受けた。史料読解での疑問点についても相談でき、研究を進めるうえで大きな助けとなった。

【史料収集】

・ウーディネ大司教文書館：

1938年当時のウーディネ大司教ジュゼッペ･ノガーラ(Giuseppe Nogara)に興味があった。ノガーラは、1938 年 1 月 8 日にローマで開かれた集会で、イタリアの司教を代表し、ムッソリーニへの忠誠を誓う演説をした。このカトリック聖職者によって体制支持が宣言された集会が組織された経緯について、2012 年秋以降調べてきた。体制側の史料はローマの国立中央文書館で調査済みで、一方のバチカン側の史料もバチカン秘蔵文書館ですでに閲覧していた。重要な参加者であるノガーラの史料だけが、調査できずにいた。今回のウーディネでの調査では、大きな収穫を得た。具体的には、「小麦戦争」についてのファイルを調べ、約 100 枚の手紙や書類などを書き写した。ノガーラの演説文の下書きを入手できたほか、バチカンとのやり取りの手紙、集会の組織者たちからの電報も手に入れることができた。

・ヴァチカン秘蔵文書館：

1938 年 1 月 9 日、ローマで、約 100 人の司教と約 3000 人の教区司祭が集会を開き、ムッソリーニへの支持を確認した。参加した聖職者たちは 1 月 12 日に教皇に謁見した。その経緯を調べるために、謁見に関するファイル (Prefettura Casa Pontificia, Udienze scatola) を調べた。

・考古学・美術史図書館（ローマ）:
『イタリア出版年報』(Sindacato nazionale fascista dei giornalisti, *Annuario della stampa italiana*, Bologna, Zanichelli, 1937)の 1937 年度版を閲覧した。研究で扱っているカトリック系の新聞や雑誌に関する基礎情報を確認した。

・フィレンツェ国立中央図書館：
イタリアの下位聖職者団体の機関紙『司祭の友』(*L'Amico del Clero*)の 1925 年から 1947 年分を調査した。同誌は、1925 年刊行の月刊誌で、下位聖職者に経済や法律の情報を流布することを目的としたものである。同誌の記事を分析することで、イタリア社会の末端で暮らす下位聖職者たちが、ファシズム政府に対しどのような見方や要求を有していたかを、明らかにできた。フィレンツェでの調査・分析の成果をもとに、博士論文の一部を書き上げた。

【論文の進捗状況】
　博士論文を三章構成で考えている。前回の派遣期間中に第一章を書き終えていた。今回の派遣中には、第三章を書き終えた。2013 年夏までに残る第二章を終え、秋に提出する計画である。

【業績】
博士論文第一章の一部をもとに論文を作成し、イタリアの学術誌 *Società e Storia* に投稿した。
Cattolicesimo, razzismo e fascismo. L'attività propagandistica di Giulio de' Rossi dell'Arno (1938-1943)

今後の計画
派遣の成果をもとに、2013 年度中は以下の事柄の達成を目指す。
・博士論文の完成と学位取得。
・イタリアの学術誌への論文投稿。博士論文から 2 本程度作成可能。
・日本の学術誌への論文投稿。『日伊文化研究』、『西洋史学』、『クァドランテ』を投稿先として考えている。